



練馬区立開進第一中学校 開進一中だより

平成28年度 第3号 平成28年6月29日発行

ものの見方・とらえ方

今年の梅雨は今のところ、さほどの降雨量にはなっていませんが、傘が手放せない日が続いています。「梅雨はじめじめして嫌いだ」「部活ができなくて雨はいやだなあ」と思う人も多いことでしょう。それは君たち中学生にとってみて、当然の見方だと思います。しかしながら、見方、とらえ方を変えると、この梅雨は日本にとってとても大切な時期です。

私は3年前のこの梅雨の時期、仕事で新潟に行く機会がありました。上越新幹線で行きましたが、車窓の光景がたいへん新鮮でした。東京、埼玉はたくさんのビルや住宅が続きますが、群馬に入ると、徐々に山や畑が多く見られるようになり（トンネルも多くなります）、新潟に入るととたんに水田が一面に広がり始めました。日本一の水田面積を誇る新潟県、景色が違います。その水田の光景に目をひかれました。植えて間もない稲が水田の中で鮮やかな緑色に輝いていました。そうか、この稲が育つためには梅雨の時期の降雨が欠かせないのだと改めてはっとさせられました。梅雨のおかげで日本のお米はおいしく育っていくわけです。ありがたいことですね。このように見方を変えると「恵みの雨」となるわけです。もちろん今年多く報道されているように夏の水不足解消にも欠かせない雨です。

さて、日本人は梅雨の時期にも自然の美しさを見て取ってきました。陰暦の5月（皐月）に降る、この梅雨の雨を「五月雨」と呼び、降り方によって「小糠雨」という言い方もします。霧雨というと気象用語的ですが、こぬか雨という文学的ですね。「遣らざる雨」は、来客が帰ろうとするのを引き留めるかのように降ってくる雨を言います。風情のある言葉ですね。この時期ではありませんが、「小夜時雨」「菜種梅雨」「村雨」「狐の嫁入り」など、日本人はいやな雨もこのように表現して楽しんできました。いやなことも見方・発想を変えて楽しむことは、生きていく上でとても大切なことです。人生に潤いを与えます。

雨に限らず、自分に都合の良い見方、自己中心的な見方からは、不平・不満しか生まれませんが、別の見方や相手の立場に立つと発想は広がり、思いやりや感謝の気持ちが芽生え、心を豊かにします。ぜひきみたちも心がけてください。

今月の言葉

雨垂れ石を穿つ

「あまだれいしをうがつ」と読みます。「穿つ」は、穴をあける、掘る、突き抜けるという意味です。もうわかりますね。雨の滴が石に穴をあけるという意味になります。ドリルのような強い力はなくとも、繰り返し繰り返し同じところに滴が落ちれば、いずれ穴をあけてしまう強い力になるということわざです。この現象は実際に京都などの古寺で軒下の敷石がへこんでいる場面を目にします。何十年、何百年の間に実際に起こる現象なのです。長い長い悠久の時の流れを感じます。

さて、ことわざですからどういう教訓になるかと言えば、これももうわかりますよね。どんな小さな力でも根気よく繰り返し努力すればいつかは成果が得られるという意味になります。予備校のキャッチフレーズの「継続は力なり」とほぼ同じです。先人の教えに学んで、小さな努力の積み重ねを大切にしていきましょう。

伝統の上に、新たなものを積み重ねた運動会

運動会実行委員長 門脇 祐太

今年度の運動会は、開進第一中学校にとって、第70回という節目をむかえるものでした。

それはつまり、これまでの70年間で築かれてきた伝統を受け継いでいかなければならないということを意味します。さらに、今年度は大きな変化にも迫られました。開進第一中学校の伝統として長年にわたり実施されてきた組体操のプログラムの変更です。生徒も保護者や地域の方々も「当然行われるものだ。」と思っていたであろうものがなくなる。たった1つの変化ですが、その影響は大きなものでした。

その中で行われる運動会。「より良いものにするためには何が必要だろうか」と考えるところからのスタートでした。そして行き着いたテーマは「生徒の力で作る運動会」

昨年までと違い、入場行進は3年生の実行委員が引っ張りました。開会式のラジオ体操もすべて生徒のかけ声。校歌斉唱も伴奏なし。生徒の

声だけで歌い上げました。その他にも細かい部分をあげればいくつもありますが、変化の多い運動会だったと思います。そのため、練習では「去年と違って・・・」ということがたくさんありましたが、戸惑いながらもきちんと対応しようとしてくれる姿を多く見ることができ、とても頼もしく思いました。

変化は成長するチャンスだと思います。どう乗り切り、どう生かすか。よき伝統は受け継ぎながら、さらに良い方向へ変化させていく。今年の運動会は、生徒のがんばりのお陰でより良い変化のスタートを切ることができたと思います。ありがとうございました。

伝統を繋いだ組体操

保健体育科 崎 秀夫

「開進一中の3年男子には越えなければならない壁がある」それが5段タワーだ。3年男子が学校の真のリーダーになるための登竜門であった。

この1年間で一気に世の中の流れが変わった。運動会で5段タワーができなくなった。校長先生と話し合った結果、今年の組体操の大技は1段ロケット・ローリングウェーブ・肩上ピラミッド・スーパー3段に決まった。3年男子全員に学年集会で話した。『世の中の流れから5段タワーができないこと。絶対に怪我は許されないこと。13年間続いた開一伝統の組体操が今年最後になるかもしれないこと。開一の先輩たちが築いてきた組体操に全力で取り組むこと。』3年男子は真剣に聞いていた。



練習が始まった。3年男子は本気であった。ス・パ・3段土台の6人が円陣になり肩を組んで立つしゃがむの単純な練習。決して手を抜かず「せーの・1・2・3・4・5」腹の底から大きな声を出していた。開一の組体操は、大きな声を出すことも大切な演技である。全ての練習に真剣に取り組んでいた。こんな3年の姿を見て1・2年は学んでいく。肩上ピラミッド、なかなか全クラス揃って前進できないときに私は言った。「今の若者が、痛いとか苦しいとか決して文句を言わず、こんなにもひたむきに一生懸命に練習しているこの姿を世間の人みんなに見てもらいたい、頑張れ！」。

今年行ったスーパー3段。全員が気持ちを集中してタイミングを合わせミスが許されないとても難しい種目であった。

運動会前日のお披露目。全校女子、全教員、主事さん方が見守る中やっと完成した。

そして運動会当日の本番、1段目がしゃがみ立ちから立ち上がり、2段目が仰向け状態から起き上がり合体、後藤君が長谷川君が山口君が発射台から大空に向かって次々に飛び出し、3人のロケットは見事に2段目に跳び乗った。「今年の3年男子も立派に壁を乗り越えた！」と思った。

努力を咲かせるということ

保健体育科 橋本 和加子

今年の人文字『咲』は、前任の安岡先生と、昨年度から活動しているピックアップの生徒たちが、「自分たちが頑張ってきたこと、努力してきたことを咲かせる一年にする」という思いを込めて決めた文字です。

この思いを受け、私たちも生徒たちの努力を最大限に引き出すために最善を尽くしたつもりです。

短い練習期間の中で、1年生は2曲も覚えるのは大変だったことでしょう。しかし、自分たちの練習を後回しにして、1年生に振りを教えにきてくれた上級生への感謝の気持ちを忘れないでください。

暑い中、何度も繰り返し踊り、疲れて集中できなくなったこともありましたが、運動会の成功に向けて、最後まで諦めずに練習を重ねたみなさんの姿はとて

も立派でした。

当日のアクシデントにも、最後まで笑顔で踊ることができたのは、練習で培った力が本物だったからだと思います。

ダンスの練習を通して、全校女子が一人では頑張れないことを、仲間とともに乗り越え、絆を深められたことはずっと生徒たちの心に残っていくと思います。

今、私は改めて伝えたいことがあります。「ダンスの楽しさを教えてくれてありがとう。みんなと一緒にダンスができて楽しかった。とっても楽しかった。ありがとうございました。」

平成28年度 セーフティ教室

6月2日(木) 練馬警察署 警察サポーターの高橋様と門野様を講師にお迎えして、セーフティ教室を開催いたしました。



テ - マ 『自分の身は自分で守る』

1 ペットブーム

家で飼えなくなった動物を警察に持ってきて何とかしてほしいという人が大変多くいます。中には警察官が家で飼ってくれる人もいますが、その多くは殺処分されてしまいます。最後まで飼えるかをよく考えてペットを飼ってください。

2 「中学生は犯罪を犯しても捕まらない。」と思っている人がいるようですが、大きな間違いです。14歳以上は逮捕され、留置所にいきます。13歳以下は施設に入って家には帰るできません。

3 5・6・7月は不審者の発生が多い時期です。被害に遭わないためには一人で歩いている時、イヤホンで音楽を聴きながら歩かない。スマホを見ながら歩かない。人の気配を感じることができないからです。

声をかけられたら、手の届かない位置で対応する。

夜11時以降は外出しない。

4 薬物被害に遭わないために

だめとわかっていても手を出してしまう原因は、多くが先輩から誘われるからです。「1回くらいなら大丈夫だよ。」「先輩だし、断れないし、1回くらいなら」1回手を出したらなかなかやめることができません。

5 自分を大切にしてほしい

今、辛いことがあっても大人になると楽しいことがたくさんあります。いろいろな相談場所があります。話す気持ちになります。相談してみてください。

平成28年度学校評議員

今年度の学校評議員のみなさまです。

熊畑 誠二	地域教育関係者	原 秀年	前PTA会長
市川 哲也	第二地区委員	秋山 由里	第二地区委員
嶋田 澄子	練馬区青少年委員	松延 圭悟	地域小学校PTA会長
渡辺 弘幸	同窓会幹事長	神尾 幸太郎	本校PTA会長
吉川 文子	主任児童委員		

連続した生徒欠席の場合の対応について

川崎市の中学1年生の事件を受けて、文部科学省は「児童生徒の安全確保に係わる対応等について」定め、都教委、区教委をつうじて、次のような具体的な対応を行います。

欠席連絡の有無を問わず、3日間連続で欠席した生徒には、学級担任が家庭へ連絡をとり、本人確認を行う。

正当な理由なく休業日を除き引き続き7日間欠席した生徒には、家庭に連絡や訪問をして、本人確認を行う。

生徒の現人確認ができない場合や、行方不明や家出が発生したりトラブルに巻き込まれるおそれがある生徒の情報を学校が把握した際には、速やかに区教育委員会に連絡する。